

## 「家を買って猫を飼ったら、女は結婚できない」？

東京でカタログ雑誌の副編集長をしている、妃斗美(ひとみ)。長く付き合ってきた恋人から婚約を破棄された過去を持つ彼女は、その後、35歳になるまで他の人とは恋愛せずに生きてきた。

「姉貴もそろそろ結婚しないと、とうが立ってくるぞ」

実家で弟に心ない言葉をかけられ、やりきれない思いをかかえながら東京に戻ってきた妃斗美の目に留まったのは、不動産屋の貼り紙。

「家さえあれば、ひとりでも」

突然、そんな思いにとりつかれた妃斗美は、家を買うために動きはじめる。保証人問題など波乱のすえ、やっとのことで家を手に入れた途端、天から降ってくるように訪れたのは、最高のパートナー、猫との出会いだった。

人生に結婚は必須のものではなく、さまざまな幸福のかたちがある時代。家と猫のある人生は、女の幸せのひとつのステレオタイプです。しかし、この作品には「幸福」のための材料は揃っているのですが、ただ「幸福」であるだけの物語にはなりません。この作品を執筆しているうちに、小手鞠さんのなかで「幸せの意味」が変わっていったといいます。それはきっと、この本を読み終わったあと読者に起こることであります。

——これは、あなただけの幸せを見つける助けになる一冊です。

【取材などのお問い合わせ先】

〒102-8008 東京都千代田区紀尾井町 3-23 株式会社文藝春秋 プロモーション部 Tel: 03-3288-6142 Mail: pr@bunshun.co.jp

※著者はニューヨーク州在住ですが、メールでのインタビュー対応ができますので、ぜひご検討ください。



『瞳のなかの幸福』 小手鞠るい著 2/22 発売予定！

定価(本体 1700 円+税) 四六判ソフトカバー

写真: hi-bi/amanaimages 装丁: 大久保明子